

小・中学生の皆さんへ

滑川町は、美しい自然と歴史に恵まれ、活力にみちた豊かな文化都市をめざして、次のような町民憲章を定めています。

- 一 緑をまもり 環境をととのえ 住みよい町をつくります
- 一 伝統を尊び 敬愛の心と創造性豊かな町をつくります
- 一 文化をたかめ スポーツを愛し 活力ある町をつくります
- 一 健康で仕事に励み 年寄り 子供を大切にす町をつくります
- 一 親切と思いやりの心で 手を取りあう町をつくります

この文集は、町内の小・中学生の皆さんが日頃の考えを書いた意見文の中から、令和六年二月十日に行われた「十代からのメッセージ ―青少年の主張大会―」で、代表者に発表していただいたものを、載せたものです。

皆さんもこの文集を読んで、ふだん考えていること、気づいたこと、見直して欲しいと思っっていることなどを自分で考え、文章にしてみましよう。そして、書いたことをもとに、今、自分にできることは何かを考え、実践する人になるよう努力しましょう。

目次

【小学生の部】

ぼくが考える滑川町……………	宮前小五年	陸田	快生
ぼくの願い……………	月の輪小五年	高橋	悠真
生きるために大切なこと……………	福田小五年	権田	るか
ぼくの大切な人……………	月の輪小五年	山崎	城二
感謝……………	宮前小五年	戸田	杏
存在の大きさ……………	月の輪小六年	落合	風凜
子どもの自分から見て……………	宮前小六年	三部	心風
滑川町の未来……………	福田小六年	高柳	優香
命……………	宮前小六年	野口	心和
輝ける未来のために……………	月の輪小六年	杉山	茉優

【中学生の部】

一匹のねこと出会って……………	滑川中一年	深町妃愛乃
なんでもいいよ……………	滑川中一年	野澤 亜翠
無意識に起こるジェンダー問題……………	滑川中一年	金井 徹平
これからの日本をより良くしていくために……………	滑川中二年	堀 悠希
言葉選びの大切さ……………	滑川中二年	山下 友菜
地震の対策……………	滑川中二年	島田 珠希

ぼくが考える滑川町

宮前小学校 五年 陸田 快生

ぼくは、滑川町で生まれて、滑川町で育ちました。だからぼくは、滑川町の良い所をたくさん知っています。例えば、伊古の里フィッシングパークでは、十一月から五月の間、つりを楽しむことができます。ニジマスを持ち帰り、食べることが出来ます。近くには、二ノ宮山展望台があり、晴れた日には、東京スカイツリーが見えることもあります。また、全国で初めての国営公園である森林公園では、サイクリングコースやアスレチック、水遊び場などがあり、子どもから大人まで楽しめる場所となっています。まだまだ良い所はたくさんあります。ぼくは、ずっと滑川町でくらししていきたいと思っています。だからこそ、もつとこうだったらいいなと思っていることがあります。

一つ目は、道路をもつと安心して自転車で走れたらいいなと思います。例えば、通学路で中学生の自転車とすれちがう時、道がせまくてこわいと思うことがあります。ぼくが中学生になった時に、小学生があぶなくない歩道があつたらいいと思います。また、街灯がもつとたくさんあつたらいいなと思います。夕方、公園から帰る時、暗くてあぶないことがあります。自転車での事故の話を聞くと、自分も気をつけないといけないなと思います。

二つ目は、ぼくはつりが好きなのですが、つりをしていると気付くことがあります。例えば、ゴミが多いこと、散歩をしている人が多いこと、思っていたより色々な魚がいること、たくさん生き物がいることなどです。

ぼくは、滑川町の自然が豊かなことをつりをして知りました。そこで、川ぞいの土手を遊歩道にして、豊かな自然を散歩している人が楽しめるようになったらいいなと思います。その遊歩道には、ゴミ箱やトイレをせつ置して、環境にやさしく安心して散歩ができる

よくなると思います。川原はコンクリートなどでかためず、自然を残したまませいびされ、安心して遊べるようになったらいいと思います。

これから先、滑川町の良い所が増えて、ぼくだけではなく、滑川町のみんなが笑顔になれたらいいなと思いました。そして、そんな滑川町になるように、今のぼくに出来ることを見つけ、積極的に取り組んでいきたいです。



ぼくの願い

月の輪小学校 五年 高橋 悠真

四年生の総合の時間に色々な障がいを持っている方々と出会いました。ぼくには、亡くなってしまいました。したが、車いすを使用して生活を送っていた祖母がいました。そのときに、車いすの生活には、いろいろな苦労があることを知りました。

まず、車いすでの外出のむずかしさです。きれいにほそうされただん差の少ない歩道ばかりではないからです。かい助者がいても通るのに苦労する道がほとんどです。また、歩道にはみ出している植木や雑草、放置された自転車やポイ捨てされたゴミによって道はばがせまくなってしまうところもあります。

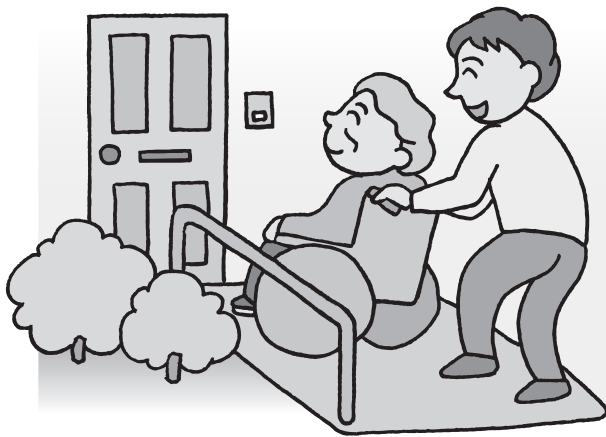
では、どのように解決すればよいのでしょうか。一度に町内すべての道路をほそうし直すことは困難です。でも、町では計画的に行っていると聞きました。少しずつでもだん差などをなくしていくことにより解決するのではないかと思えます。でも、すぐにでも解

決できることがあります。それは、歩道にはみ出している木の枝や雑草を取りのぞき、歩道を広く保つことです。また、落ちていているゴミや放置されている自転車をなくすことでバリアフリーへの一歩となります。

次に、外出先での施設設備の不便さです。滑川町にも色々な公共施設があります。しかしそこは、バリアフリーが整っている施設もあればそうではない施設もあります。障がいをもっている方々が、外出をした際に、バリアフリーが整っていないことで大変苦労したと祖母をかい助していた父から聞きました。

自分たちが住んでいる町なので、自分たちでだれもが利用しやすい施設を整えていくことが大切だと思えます。しかし、バリアフリーのない施設をバリアフリー化したり、建物を新しく作り変えたりするのは簡単にはできないのが現状です。滑川町ではコミュニティセンターの老きゆう化にともない、建て替え工事をするとなりました。この工事には、多くの人の意見を取り入れて、どんな人でも使いやすい場所にしてほしいと思います。

「だれもがくらしやすい滑川町」がぼくの願いです。ゴミはゴミ箱に捨て、自転車は決められた場所にとめるなど、自分でできることを続けてやっていきたいです。また、進学や仕事などで町をはなれた人たちにも「滑川町は住みやすかった」と思ってもらえる町にしていきたいです。



生きるために大切なこと

福田小学校 五年 権田 るか

わたしは、ふと、「いつも平和で暮らせているのはなぜだろう。」と思いました。そして、考えている中で、人と人との関係と、自然環境が良くなければ平和に暮らせないこと、人々が協力し、一人一人ががんばって自分の役割を果たしているからわたしの平和があるということに気付きました。自分もいつか、平和を保つことができる社会の一員になるために、大切にしたいことを三つ考えました。

一つ目は、助け合うことです。相手のことを思い、自分から考えて行動することができれば、様々な困難を乗り越えられると思っただからです。災害や戦争で起こる問題を解決すること、生活を支え合うことや社会を発展させることは、助け合いがあつてこそできることです。

二つ目は、思いやることです。困っていたり悲しんでいたたりする人がいたら、手を貸して話しかけ、やさ

しい言葉をかけると相手はうれしい気持ちになって、相手との関係がよくなるからです。

三つ目は、自然を守ることです。わたし達は地球の資源を使いながら生活しています。水や土地、空気、動植物等について、一人一人が考えて行動することで、みんなが幸せに暮らすことができます。

わたしは、いろいろな人達のために役割を果たしたり、大きな苦勞をしたりしたことはありません。平和を守ることや生み出すことの大変さをまだ実感したことがありません。今は社会に出いていませんが、学校で笑顔と元気を大切にすることや、周りの人と仲良くすること、助け合うことを毎日続けていくことで、いろいろな人達がいい気持ちになるようにしたいです。また、節電や節水を心がけたり、自然や環境に関心をもつて学んだりすることを続けていきたいです。そして、わたしが大人になった時には、人と人との関係、自然環境を良くしていく役割を果たしていける人になりたいです。

ぼくの大切な人

月の輪小学校 五年 山崎 城二

「いいんだよ。」これはぼくのじいじの口ぐせであり、ぼくにとつてはまほうのような言葉だ。みなさんは「大切な家族」と聞いてだれが思いうかぶだろうか。ほとんどの人がお父さんやお母さん、兄弟姉妹なのではないだろうか。ぼくはじいじだ。じいじはぼくと同じ辰年で同じ七月生まれのしし座、七一才の高れい者である。じいじはいつもぼくの話をちゃんと聞いてくれるし、どんな時も味方でいてくれる。生まれた時から面倒を見てくれたり、スイミングと一緒に رفتたり、幼稚園のお迎えにもいつも来てくれた。人を笑わせるのが得意でずーっとしゃべっている。つりや料理も上手で物知りだからいろんなことを教えてくれる。今のぼくは、じいじのマネをして料理をするようになったし、魚つりや川の生き物にもくわしくなった。仏みたいに心が広くてやさしいじいじと過ごしたくて、時間があればじいじの家に行く。一人で電車に乗って行

くこともあるくらいだ。一緒につりをしたり、散歩に行ったり、買い物に行ったり：語り始めたらきりがない。

今、日本は超高れい社会で世界の中でも特に高れい化率が高く、加速している国と言われている。ここ滑川町も高れい化率が約二三%になっていて、今後も増えていくと予想されている。医りよう技術の進歩で死亡率が下がり、平均じゅ命はのびる一方だ。高れい者を支えるには経済を担う労働が必要となるが、少子化の影きようで働く世代の負担が増えてしまっている。若い人が都市部へ行ってしまい、地方自治体に納める税金が減り、医りよう・介護・防災などの公共サービスが十分に行えず、生活そのものが困難になっていってしまう。

では、ぼくたちに何ができるだろうか。地方の良い所、住みやすさをアピールし、移住を受け入れ、働き手を増やす。高れい者福祉し設での手伝いや、イベントの参加でふれあい、会話をする機会を増やす。ぼ金活動をして介護用品を取りそろえてもらうなどすれば、

社会全体の負担が減り、過ごしやすい社会になる。そうすることで少子高れい化の負の連さを止められるかもしれない。地域の活動が苦手な人でも、自分の家族であるじいじやばあばを大切にすることをもち、ふだんからあいさつや会話をすることが必要だと思う。

ぼくのじいじは病気になって、すたすたと速く歩くことはできない。生活の中で周りの人の手伝いが必要なものもある。今までずっと面倒を見てくれたから今度はぼくが面倒を見る番だ。いつまでも大好きなじいじとずっと一緒にいたいから「大丈夫だよ、いいんだよ。」と体も心も支えてあげられるような大人になりたい。じいじがいなければ、ぼくは今ここにいないのだから。みなさん、家族と過ごすことを大切にしてください。一日の最後に笑顔で幸せだと思えるように。

感謝

宮前小学校 五年 戸田 杏

みなさんは、「幸せだなあ」と思うことはありませんか。私はよく思います。ほかほかのご飯を食べている時や、温かいお風呂に入っている時、家族と同じテレビを見て大笑いしたり、友達とたくさん遊んだり、好きなことに夢中になれたり、今、私が過ごしている時間は、とても幸せなものなのです。

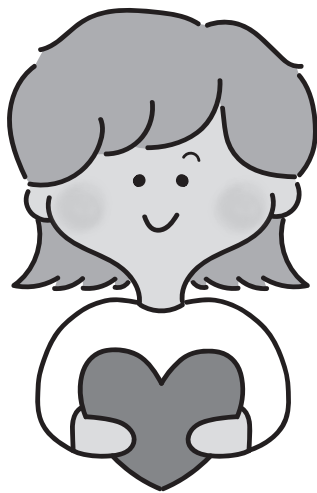
なぜそう思うのかというと、遠い外国では、戦争で数えきれないほどの被害者がいると、ニュースで知りました。毎日充実した時間を過ごし、幸せをたくさん感じながら生活している私の日常の裏で、どこからとんでくるか分からない爆弾におびえる毎日を過ごしている人たちが、その被害者の多くは、私と同じくらいの子供たちか、それよりも、もつともつと下の子たちだと知り、胸がきゅつと締め付けられます。なんて言ったらいいのかわからない感情になりました。ニュースの映像が映画のワンシーンに見えてしまう時もありま

した。あまりにも想像を超えた現実になかなか気持ちがついてこないけれど、これだけは言えます。自分が「いやだ」「面倒くさい」などと思うことすら、たいしたことないなど。たくさん幸せを感じながら、笑顔で過ごせる毎日に感謝しながら生活していきたいと思いました。

そして、新年早々の大地震、このニュースには本当に驚きました。今起きている地震で亡くなってしまった人も、安否が分からない人も大勢いて、家族の人たちは、どれほど心配で、悲しい思いをしているのでしょうか。命は助かっても、自分の家を一瞬で失った人たちも数えきれないほどいると知りました。そのような映像を見ている私も言葉では言い表せないほどの悲しい気持ちになってしまいます。「なんで」「どうして」「新しい年になったばかりの時に」「色々な感情が次から次へと湧き出てきます。改めて、自然の怖さを知りました。

私が住んでいる町も、今はおだやかですが、いつ自然災害がおそってくるか分かりません。だからこそ、今の一日一日を大切にしながら感謝の気持ちも忘れず

に過ごしていきたいです。そして、世界中に幸せの花が、笑顔の花がたくさん咲くことを、心から願っています。



存在の大きさ

月の輪小学校 六年 落合 風凜

私には、将来の夢があります。それは、陸上選手になることです。私は、三年生から陸上をやっています。

そんな陸上を三年間続けることができたのは、家族や友達の存在が大きいです。家族は、忙しい中、送迎をしてくれたり、陸上を続けるために、働いてくれたりします。また、友達は、目標を達成するために一緒に練習をしてくれたり、応援してくれたりします。コーチも、私に限らずみんなのタイムが良くなるように、毎回練習メニューを考えてくれます。家族や友達やコーチには、日頃から感謝をしたいと思っています。ですが、時々父や母に怒られると、

「そんなのどうでもいいじゃん。」
と、思ってしまうこともあります。けれど、怒ってくれるということは私のことを思ってくれているのだと思います。いつも後から反省をします。

両親は、私の世話だけではなく、仕事もしています。

毎回、仕事から帰ってきて、家事をしたり、陸上の送迎をしてくれたりします。また、お兄ちゃんたちは両親が忙しいときに家事を色々手伝ってくれます。

いつもお世話になっっている両親に、たまには休ませてあげたいと思ったので、私にできることを考えてみました。両親が忙しいときに限らず、進んで洗濯物を畳んだり、手伝ったりしたいです。また、陸上を続けるためには、お金もとてもかかります。両親は、こんなにも私の将来の夢のために時間とお金を使ってくれていると思うと、とてもほこらしい気持ちと感謝の気持ちでいっぱいになります。

私がお金を払うことはできませんが、毎回進んでお手伝いをしたり、目標に向かって全力で頑張ったりすることが、今の私にできることだと思います。

このように、私が陸上を続けるために、友達やコーチ、家族みんなに協力してもらっています。私を支えてくれる大切な人たちの存在の大きさに感謝し、これからも大好きな陸上を続け、頑張っていきます。

子どもの自分から見て

宮前小学校 六年 三部 心風

大人って楽しいのかな？と、ふと思うことがあります。自分の親を見ていると、いつも働いていて楽しそうではありません。正直私は、大人になるのが少しこわいので、大人になりたくありません。

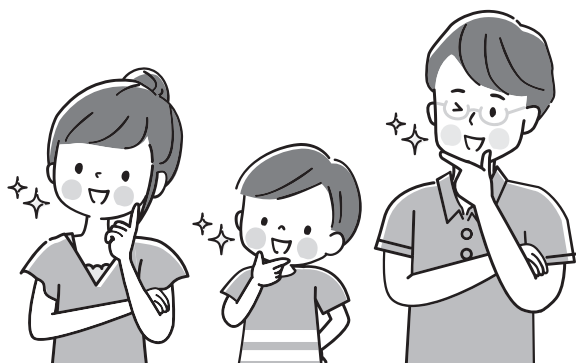
自分の「今」は、とても充実しています。友達もいて、たくさん遊べて、とても自由です。父も母も、とても心配性ですが、その分とても優しく、何ごとも賛成し、全力で応援してくれます。私は、このままずっと子どもでいたいぐらいです。でも私が楽しく充実しているも、それを見守ってくれている父と母は、働いて、家に帰り、食事を済ませて、ねむりにつく。毎日、同じことをくりかえしているように感じます。私は、自分が楽しくても、周りの人も心から楽しんでもらわないと、何だか気が済みません。本当に父も母も、毎日を楽しいと感じているのでしょうか。少し、心配になることがあります。そこで、母に私が思っていることを

うち明けました。大人は、毎日楽しいのか。母は、子どものころに、もどりたいのか、など全部……。すると、母は、

「戻りたいとは思わないけど、一度全部やり直したいかな……。でも、今までの人生があったから、あなたやお兄ちゃん、お姉ちゃんに出会えているのだから、このままが良いかな！今が一番幸せ!!」と、にこにこして言いました。その笑顔を見ていたら、心配していた自分がちっぽけに思えてきました。一番の幸せが、これから待っているのかと思ったらわくわくしてきました。私は今、とても幸せです。それは、父や母が一生懸命に働いて、いつも支えてくれているからです。私が、大人になったら、私がそうだったように、子どもたちみんながあなたかく、幸せな気持ちでいっぱいになるようにしたいです。自分が今、幸せに生きている分、周りの人も幸せにしていきたいです。

子どもも、大人も、感じ方は人それぞれがうと思いません。大人の楽しみは、きつとお酒を飲むことだけではなく、子どものみんなを楽しませることや、大切

な人達の笑顔を見ることが、大人の楽しみの一つなのかなと思います。これから何ができるのか分からないですが、一日を大切に一生懸命、生きていけば、答えがいつか見つかる気がします。今の私には、分からない大人の楽しさがきつとこれから待っているのだと信じて、一歩ずつ前に進んでいきたいと、改めて思いました。



滑川町の未来

福田小学校 六年 高柳 優香

私は生まれてから十二年間ずっと滑川町に住んでいます。滑川町の魅力の一つとして自然が豊かで季節ごとの楽しみがあることがあげられます。春の桜はもちろんきれいです。田んぼの用水路をのぞくとメダカやエビなどがたくさんいます。夏は森も田んぼも緑がきれいで虫取りも楽しむことができます。秋は紅葉や落ち葉がきれいで、カキやクリなど秋の味覚を楽しめます。冬は窓から鳥が遊んでいるのがよく見えます。雪がふった時には町全体が真っ白になってとてもきれいです。でも、最近は滑川町の自然が減ってきていると感じることがあります。

私の家は森や野原に囲まれていました。しかし二年前、家の横にソーラーパネルが作られました。私の家の周りだけではなく次々にソーラーパネルが作られています。化石燃料を使う発電よりは地球に優しいかもしれないけれど私は見慣れている景色の中に、

ソーラーパネルが突然入り込んでくるのはなんだか残念です。滑川町が発展して便利になることは嬉しいけれど見慣れた景色はできれば変わってほしくないです。

また、滑川町は沼や川などの水源も豊富ですがそれがすごく汚いと感じます。滑川町には「ミヤコタナゴが自然の中で生きられるようにする」という目標があります。でも今のままではまだ難しいと感じます。

私は月に一回、森林公園内にある柳谷沼という沼で環境調査ボランティアをしています。

この「柳谷沼環境調査」では酸性・アルカリ性の強さを示すpH、水の汚れ具合を示すCODと沼にいる生き物の種類と数を調査します。夏にはたくさんのアメリカザリガニが取れます。

アメリカザリガニを釣るイベントでザリガニをたくさん駆除しましたが、いなくなることがありません。このままではいつまでたってもミヤコタナゴが棲むことはできません。

また、最近では元気な木が減っている印象があります。近所の景色を改めてながめてみると色々なところに枯

れてしまった木があります。私の家の近くにある森の木もだいぶ減ってしまいました。滑川町が発展するのはいいことだけれど、そのせいで自然が失われてしまうのはさびしいことだなと思いました。

これからも自然が魅力の滑川町であってほしいので私はこれからも環境調査や地域のごみ拾いを続けます。また、滑川町の魅力である自然を活かしてみなが心を休ませられるような場所を作ったり、年をとっても暮らせるような生活に便利な場所を作ったりして、これからも滑川町が発展してほしいと思います。



命

宮前小学校 六年 野口 心和

みなさんは、命とはどういうものだと考えますか。ほとんどの人が「大切。」や「生きるために一番必要なもの。」と答えるでしょう。ですが、中にはそんな大切な命を軽んじるようなことをする人がいます。道路にとび出したり、落ちたら危ない高い所に登ったりする人を見かけることがあります。行動だけではありません。言動も誰かの命をうばってしまうことがあります。ニュースでは、クラスメイトに「死ぬ」「消えろ」と言われた生徒が本当に亡くなってしまおうといった事件もありました。言葉はだれかに勇気をあたえたり、支えたり、なぐさめたりできます。でも、時には刃物と同じように誰かを傷付け、命をうばってしまう可能性もあるのです。

そして、命があるのは人間だけではありません。私

達の身の回りにいる虫や動物にも命があります。私はよく、親に「犬を飼いたい」と言いますが、「動物を飼うのは簡単じゃないんだよ。命があるんだから。」と最近も言われました。飼えないから動画を見ていやされようと思い、犬の動画を見ているとサムネイルに「保護犬」と書いてある動画を見つけました。昨年の十代からのメッセーで選ばれた友達が作文の中に保護犬のことを書いたと言っていたのでその作文を読んでみました。自分が知らない保護犬のことが書かれていました。保護犬は一時的にしか保護されないこと、引き取ってくれる人がいなかったら殺されてしまうことなどです。それを知った時「どうして殺してしまうのか。」という疑問が思い浮かんだのと「どうして保護犬が増えるのだろうか。」と思い、保護について調べることになりました。すると、捨て犬の件数や動物虐待の件数が年々増えているのに犬や猫を引き取る人は年々減っていました。そのため保護する犬、猫が多す

ぎてやむを得ず殺処分してしまっていると記載されて
いました。私は犬と猫が気の毒になりました。望んで
捨てられたわけでも、望んで虐待されているわけでも
ないのに知らない場所に連れていかれて、飼い主が見
つからなかったら殺されてしまうなんてひどいと思
いました。

人間の命もすごく大切です。そして、動物の命も同
じくらい大切です。決して軽い気持ちで傷付けて良い
物ではありません。人のことも動物のことも大切に考
えて言動、行動をすることが本当の平和だと思います。



輝ける未来のために

月の輪小学校 六年 杉山 茉優

私には兄がいます。兄は高校の部活で陸上をしています。去年、国立競技場でパラ陸上の大会があり、一般の部で参加することになったので家族で応援をしに行きました。

その日はとても良い天気だったので、競技が始まる前に外で散歩をしていました。その時、車イスに乗って走っている人がペットボトルの飲み物を落としてしまいました。それに気付いた私は、走って拾いに行き、渡そうとしました。しかし、車イスに乗って走っていた人はとても速くて中々追いつけませんでした。大きな声で呼びかけ、やっと気付いてくれたので渡すことができました。その人はパラ陸上の選手で、大会前の練習をしている所でした。すごく汗をかいていたので、練習をたくさんしているのだらうと思いました。「ありがとう！気付かなかったから助かったよ！」と、言ってもらえて、恥ずかしい気持ちもあつたけれど嬉しかったです。

ど嬉しかったです。

大会では、短距離や幅跳び、高跳びなど様々な競技がありました。どの競技を見ても、体の不自由さを感じられないほど、とても格好良かったです。体の一部に不自由があつたり、目が見えなかつたり、耳が聞こえなかつたりなど、辛い思いをしたこともあつたと思うのに、パラの競技を始め、ここまで極められるのはすごいと思いました。私は、スポーツの習い事はしていませんが、マラソン大会が近くなると、長距離を走る練習をします。けれど疲れた！足が痛い！などと言って、辛いことや嫌なことから楽な方へと逃げてしまっていました。ですが、大会で活躍している人達を見て、日々頑張ることに意味があり、それが努力の結晶となり、輝いていくのかなと思いました。

パラスポーツは障がい者のためだけのスポーツというイメージがあつたけれど、調べてみると、障がいのある人もない人も、誰もがみんな、思い思いに楽しめる競技ということが分かりました。実際に日本国内で開催されている車イスソフトボールの試合では、多く

の健常者が選手として競技に参加しているそうです。障がいの重さ、性別、年齢に関わらず、車イスに乗るという前提により同じ条件でプレーできます。バリアフリーで参加しやすい身近なスポーツとして人気があるそうです。

身近にパラスポーツがなかったのであまり考えることはありませんでしたが、今回、兄の大会の応援に行ったおかげで色々考えるきっかけになりました。スポーツに関わらず社会を生きていく中で、夢や可能性は障がいの有無に関係なく誰にでもあるべきだと思いました。障がいでいいだけではなく、誰もが違う個性を持って生かすことができ、誰もが楽しみを持って輝ける世の中であって欲しいです。そして私は、そんな明るい未来を創る発信者になりたいです。



一匹のねこと出会って

滑川中学校 一年 深町 妃愛乃

昨年の十二月の始めに、学校の体育館脇にうずくまっていたねこを見つけた。何気なく私は、「ひなたぼっこしているのかな」と思った。その日の夜、体育館でバスケの練習に行った時、そのねこが動かずに同じ場所にいた。声をかけると、私の足元でニャーニャーとなき、私はこのままだと死んでしまおうと思い、母と一緒に家へ連れて帰った。家にいた父に怒られると思ったが、父はねこを見て、

「命は大事だからね。」と言った。私はホツとして、早く元気になって飼い主を探してあげたいと思った。

私の家には、十六才のメスねこ、五才のオスねこの二匹がいる。どうしようか迷ったけれど、母の実家にねこのケージがあることを思い出し用意して、母と姉と動物病院で見てもらった。ねこは高齢で、低体温

症にかかり、点滴するしかなく、あとはみとってあげるしかないと言われた。

私は、助かると思っていたので、悲しくて涙が止まらなかった。でも、餌や水をあげれば回復すると思つたので、世話をした。二匹のねこもそつと見守つていくように感じた。日に日に弱っていくねこ。私は後先のことを考えずに連れてきた。亡くなったらどうしよう。無理に餌や水を飲ませた方がいいのか、そのまま見守つた方がいいのか迷った。けいれんが起き、一生懸命に生きているねこ。苦しそうで涙があふれてきた。一週間毎日点滴につれていったが、最後は静かにねこが逝った。火葬して、お寺に今は眠っている。

私の家には、幼い頃からねこがいて、将来、獣看護師になりたいと思っていた。しかし、ねこの死に直面して、本当に父の言った「命“の重さを感じた。たった一週間の出会いだったけど、こんなつらい経験をしたことがなかった。今は動物の死に向き合うことが難しく、自分には、動物にたずさわる仕事は無理だと思つた。始めはかわいくても、やはり死も一緒なんだと初

めて味わった。この経験から動物にたずさわる仕事を
しなくても、日常を共にしているねこたちをもっとか
わいがり、世話をしたいと思った。



なんでもいいよ

滑川中学校 一年 野澤 亜翠

「なんでもいいよ」

これは私の口ぐせです。質問されてもめんどうくさいので「なんでもいいよ」と答えてしまいます。みなさんも一度は口にしたことがあるでしょう。

そもそもなぜ、「なんでもいいよ」と答えてしまうのでしょうか。人によって違うと思いますが、大抵の人はめんどうくさいや自分で決められないから、と答えるでしょう。私も実際このような意見です。

実際行われる、我が家の会話は、次の通りです。

「今日のご飯、なにがいい。」

「なんでもいいよ。」

私は、楽したいがための返事をしています。この会話を掘り返して考えてみましょう。

まず、母はご飯を決めたくてたずねています。それなのに私は、今、行っている作業に集中したい、めんどうくさいという理由で、母の質問にふたをしています。

すると、どうなるでしょう。結局母は、自分で決めるようになります。また、「なんでもいいよ」と言ったことで、私の嫌いな野菜や果物、今、気分ではないご飯になるかもしれません。

もう一つの例に、このような会話があります。

「なんのゲームしたい。」

「なんでもいいよ。」

この時の私は、本当になんでもいいと思っています。けれど相手は、質問したのに適当に対応されたと思っ
てしまうかもしれません。そして、前の会話と同じく
友達が決めるようになります。

このことから私は、自分が楽だからめんどくさいから、本当になんでもいいからという理由で言っている「なんでもいいよ」という言葉は、相手にとって嬉しくない対応だと思いました。「なんでもいいよ」という言葉を使わないため、次の二つの解決策があります。一つ目は、相手の気持ちを考えて発言することです。前言ったように、相手の気持ちを考え、その対応が本当に正しいのか一度とまって考えようと思いました。

二つ目は、言い方を変えることです。「なんでもいいよ」の言葉は、相手を不快な気持ちにさせてしまうことを知りました。ですからご飯の時は、

「野菜以外ならいいよ。」

とか、本当になんでもいい時は、

「みんなに合わせるよ。」

と、不快にさせない言葉を使おうと思いました。

私は、「なんでもいいよ」と使いたくなったら、この二つの解決策を思い出し、自分と相手が嬉しい気持ちになれる言葉を使い、毎日楽しく過ごしたいと思います。



無意識に起こるジェンダー問題

滑川中学校 一年 金井 徹平

中学生になり、書く書類が増えた気がします。そこで、母が保護者名を書くらんに、父の名前を書いていくのをみかけました。そこで、昔、男性は狩り、女性は育児など仕事が決められていたことを思い出し、それが引き継がれてしまい、問題になってしまっていると思います、ジェンダー問題について調べてみました。

現在、世界で問題となっているのは、女性が教育を受けられない、仕事ができず家事、育児に専念しなければならぬ、逆に男性は仕事に就かなければならぬなど多くあります。同じ人間なのに性別が違うだけで、多くの人々が苦しんでいると知り、僕はとても悲しいです。

そこで、今、世界中や日本で取り組まれていることを紹介します。例えば、男女関係なく使えるオールジェンダートイレや、ジェンダーレスファッション、ジェンダーレスメイクなどです。日本では、女性が活躍で

きる環境の整備を求める法律、女性活躍推進法があります。もっと身近なことで言うと、女子生徒の制服のストラップが選択可能になったことです。しかし、日本は今、ジェンダー平等に近づいているとは、言えません。他の国と比べれば一目瞭然ですが、一四六ヶ国中一二五位と過去最低で、G7の中でもこの結果は最下位となりました。つまり、日本はまだ、ジェンダー平等になっておらず、取り組みが必要だということです。

最初の書類の話に戻ると、今までは保護者名として父親を書くことが普通と考えられており、母親の名前を書く、母子家庭、いわゆるシングルマザーだと思われるってしまうことがあったそうです。ジェンダー平等に少しでも近づいたために、無意識な男女差別をやめることが私たちにできる最大限の取り組みではないでしょうか。無意識な男女差別をやめることで、男だから、女だからという理由で縛られていたことができるようになり、新しい発見があるかもしれません。二〇一四年に十七歳で、史上最年少のノーベル平和賞を受

賞したマララ・ユスフザイさんの言葉に、「たった一人の子ども、たった一人の教師、たった一冊の本、そして、たった一本のペンが世界を変えられるのです。教育以外に解決策はありません。教育こそ最優先です。」とあるように、今、世界ではジェンダー問題で苦しんでいる人々が多くいます。そこで、ジェンダー問題という世界的な大きな問題として難しく考え、諦めてしまうのではなく、まずは少しずつ無意識のことからだけでもいいので、SDGsの目標五にもなっているように、世界中の全員でジェンダー平等な社会をつくっていきましょう。



これからの日本をより良くしていくために

滑川中学校 二年 堀 悠希

私は朝食の時によくニュースを見ています。そこで先日、ある報道が目につきました。その内容は、党内の派閥で行われる政治資金パーティーを巡るキックバック問題についてでした。キックバックとは、簡単に言えば取引先等に渡す謝礼金です。そして、このキックバックには違法性はありません。では、なぜ今回のキックバックは問題になったのでしょうか。実は、キックバックには違法になるものとならないものが存在し、今回のものは違法となるものでした。

政治資金パーティーでは、参加者が数千人規模となり、数千億円のお金が集まるそうです。これを規制する法律では特定の団体との癒着を防ぐため、同じ人、同じ団体から二十万円以上の支払いを受けた場合、名前や金額等を収支報告書に記載しなければなりません。ですが、適切に記載されていないことが分かり、政府は閣僚を交代させるなどの対応を取らざるを得ません。

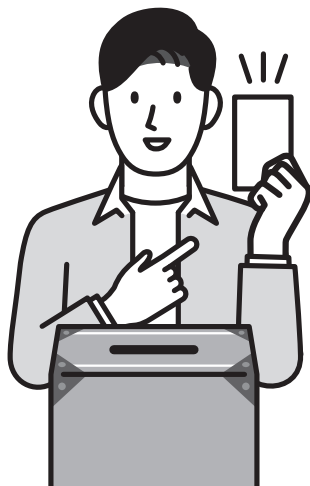
でした。このニュースを見て、日本のトップである政治家の人たちがこんなことでこれから先の日本は大丈夫なのかと思いました。

日本は民主主義国家であり、国民の代表者によって政治が行われています。当然、代表者は選挙により選ばれます。そして数年前、選挙権が十八歳に引き下げられました。これは、少子高齢化が進むなかで若い人たちに政治への関心を高めてもらうために行ったことだと思えます。

今回の記事以外にも政治家が批判を受けるような記事は多く、こんな問題になっているのかと思う時もあるれば、このような問題が起こってしまうような人たちを選んでしまっているのは国民なのだと思う時もあります。世の中を良くしたいと政治家を志した人たちが慣例や権力、お金に縛られずに正しいと思うことができるようにしっかりとみんなで見守っていかなくてはなりません。

私も十八歳になったら、成年となり有権者になります。その時は、責任感を持って行動できるような人にな

なっていたと思います。新しい時代の変化を恐れずに、まずは初めの一步として、選挙権を得たら、選挙に行き、投票をしたいと思えます。自分や、今隣に座っている人、そしてみんなが平和で安心して住み続けることの出来る日本のため、これからの日本をより良くしていくために政治に関心を持ち、しっかりと仕事をしている政治家を応援し、国民が幸せに暮らしている良い国を国民全員でつくっていくことが大切だと思えます。



言葉選びの大切さ

滑川中学校 二年 山下 友菜

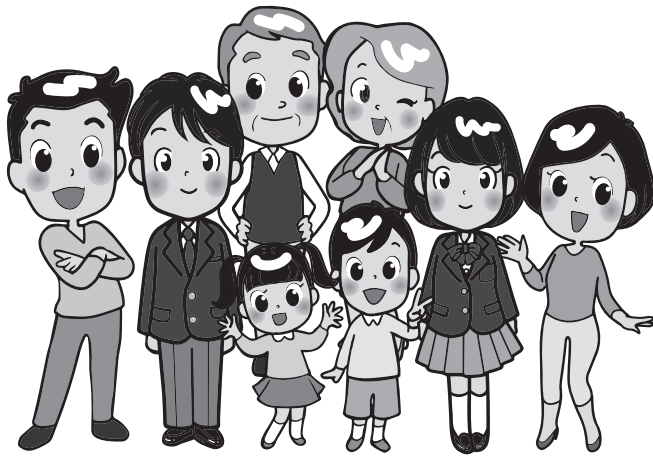
みなさんは人と関わる時にどのようなことを考えて接していますか。私は自分に対してどのような関係の相手かによつて考えることは変わりますが、前提として相手を不快な気持ちにさせないように気をつけています。

私は自分と違う意見を持つ人と話す時、どのように伝えれば相手を不快にさせないかいつも悩みます。言葉選びをするにも、良い言い方が思いつかないこともあります。そんな時、自分の伝えたいことを上手く伝えられず、誤解をまねいてしまうことがあります。私も後悔して悲しくなったり、相手も良い気持ちにはならないことがあります。どちらも良い気持ちにならないのは改善するべきだと思います。このようになってしまふのは語彙が豊富でないことが要因であると思います。言葉を知っていれば、最適な言葉を選べるはずですから、本を読んだり、色々な人と話すようにしてみ

ると改善されると思います。また、他の人の考え方に触れてみるのも良いと思います。それぞれが大切にしていることが違うのは当たり前のことなのです。他の人の考え方に触れ、さらに自分の考えを深めていけると良いと思います。例えば、哲学者のマルクスは「自らの道を進め。他人には好きに語らせよ。」という言葉を残しています。私は優柔不断で周りの様子を気にしてしまいます。私は自分の思っていることや行動の意味が相手に伝わっていないと意味がないと思っています。ですが、この言葉を知って、周りの目を気にするだけでなく、自分で意味を見出すことも大切なのだと思いました。また、相手とコミュニケーションを取るうえで今まで私は、自分の思いを相手に伝えることに焦点を当ててきました。では、相手のことを理解するためにはどうしたら良いのでしょうか。私は相手の気持ちを汲み取る努力が大事だと思います。具体的には言葉だけに注目するのではなく、相手の表情や声色に注目しながら会話すると良いと思います。そうすれば、相手の伝えたいことが汲み取りやすくなり、誤

解が生まれにくくなるのではないかなと思います。具体的な言葉だけでは十分に気持ちを伝えるのは難しい時もあるので、自分も相手も、表情や声色にも注意しながら会話したいと思います。そのこと全てを加味して相手と対応することで気持ち良く相手とコミュニケーションが取れると思います。

すぐにその成果が得られるとは思いませんが、今まで考えたことを取り入れていきたいです。



地震の対策

滑川中学校 二年 島田 珠希

皆さんは「自然災害」という言葉を聞いてどのようなことを思い浮かべますか。暴風、豪雨、洪水など、様々な種類の自然災害があります。私は、その中の地震について考えました。

日本は災害が多く起こる「災害大国」と言われており、特に地震は最近、日常生活を送る中で頻繁に起こっています。二〇〇〇年から二〇〇九年における、マグニチュード六以上の地震回数を見ると、世界で起こったうちの約二十パーセントが日本で起きています。日本で地震が多い理由は、地球の表面にある十枚のプレートのうち、日本列島は、四枚のプレートの上に位置しています。そのため、プレート運動による地震や火山活動の影響を受けやすくなっています。地震はいつどこで起こるか分かりません。なので、ハザードマップで実際に起きたときにどうすれば良いのかを確認したり、備蓄するなど、事前の準備が大切だと思います。

ます。私は、自分の地区のハザードマップを見て、滑川町立滑川中学校の体育館が長期避難施設、滑川町立滑川中学校か滑川町総合運動公園が広域避難場所ということや、地震が起こったときの揺れやすさマップを見て、とても揺れやすく、危険なことが分かりました。そのため、地震が起こったときには、揺れが収まるまで机の下などに隠れて、避難場所まで、土砂災害警戒区域を避けながら行きたいです。また、このときに大切なことがあります。家で地震が起こったときには、火を使っていた場合は、素早く火を消し、火事にならないようにしたり、あわてて外に飛び出さないことや、ブロック塀や自動販売機には近づかないことです。私は、大きな地震が起こったときにパニックになつてしまふと思うので、冷静な判断ができるように日頃からこのことを覚えていきたいです。事前に災害に備えるといえは備蓄だと思っています。けれど、備蓄の仕方が分からないという人も多いと思います。そんな人におすすめるのが、ローリングストックです。この方法は、普段から日持ちする飲み物や食料、それに日用品を多

めに買い置きしておき、賞味期限が近づいたものから使って、その分を買い足していくので、非常食になれておくことができ良いなと思いました。

私は、ハザードマップや備蓄について調べて、地震が起きたときにどうやって避難すれば良いのか、避難するときのポイント、備蓄の方法ローリングストックを知ることができました。このことを覚えておいて、地震が起こったときに、安全に避難したり、その後の生活で困らないようにしたいです。

